

全学FD推進プログラム「授業設計ワークショップ」
参加者数とアンケート結果について（抜粋）
（平成27年度～平成29年度）

総合教育センター教育改革推進部門
特任研究員 上岡 麻衣子

1. 調査の目的

平成15年度から実施された新任教員研修も今回で、14回目となった。今年度は、反転授業形式でレクチャーを事前に学習しておくことで1日目の開始時間を繰り下げ、ワーク中心の研修を行った。参加者は、SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）加盟校からの2名を含めて、15名となった。今年度と過去2年間の新任教員研修の参加人数とアンケート結果を振り返り、プログラムの改善に繋げる。

2. 過去3年間の開催日と参加者数

平成27年度 6月20日（土）～6月21日（日）
43名（徳島大学37名、SPOD加盟校6名）

平成28年度 6月18日（土）～6月19日（日）
15名（徳島大学14名、SPOD加盟校1名）

平成29年度 6月17日（土）～6月18日（日）
15名（徳島大学13名、SPOD加盟校2名）

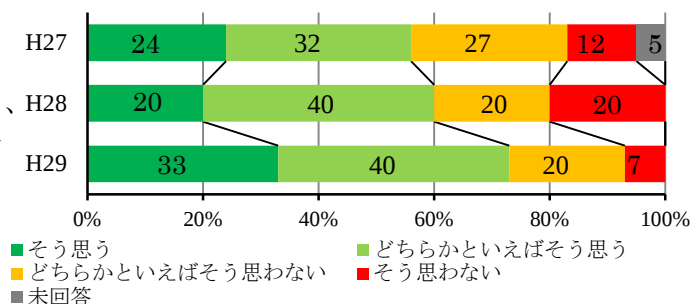
3. 過去3年間のアンケート結果から

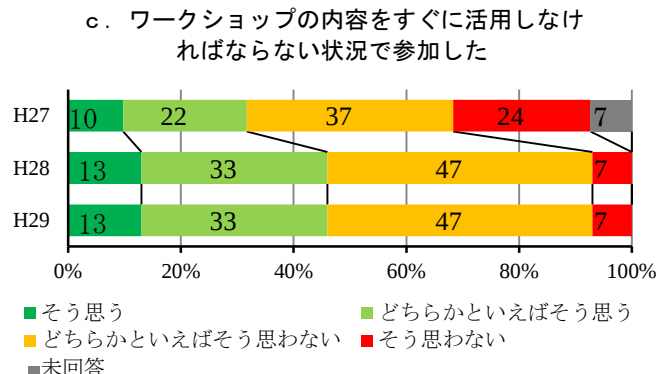
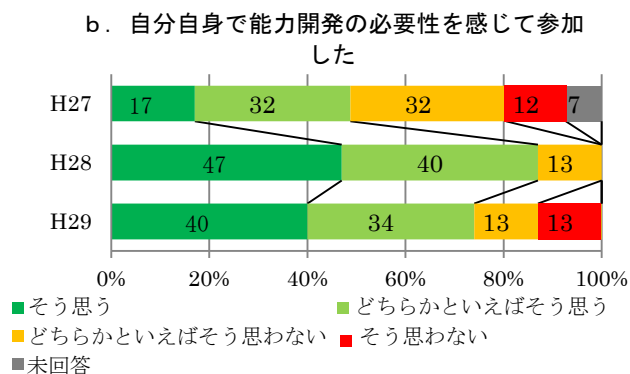
回答者数	回収率
平成27年度 41名	95%
平成28年度 15名	100%
平成29年度 15名	100%

（1）参加への経緯について

「a. ワークショップの目的や内容についてある程度知った上で参加した」について、
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した参加者が、年々増加していることから、授業設計ワークショップが、学内で周知されてきていることが推察できる。

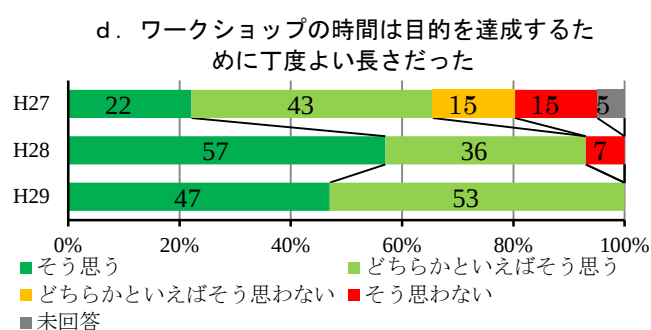
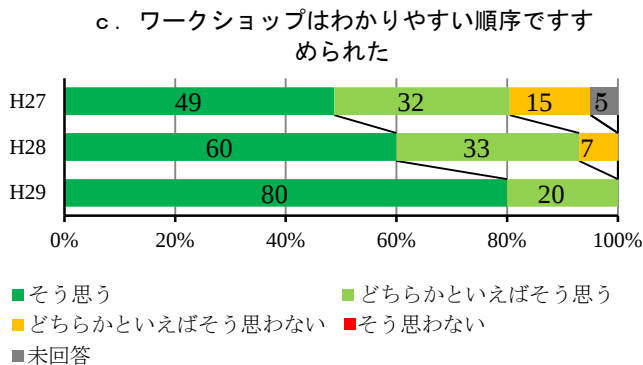
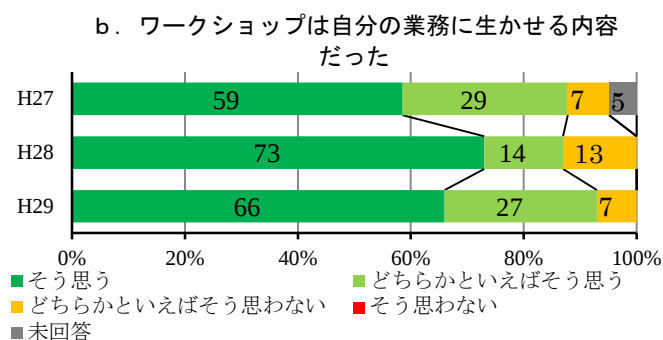
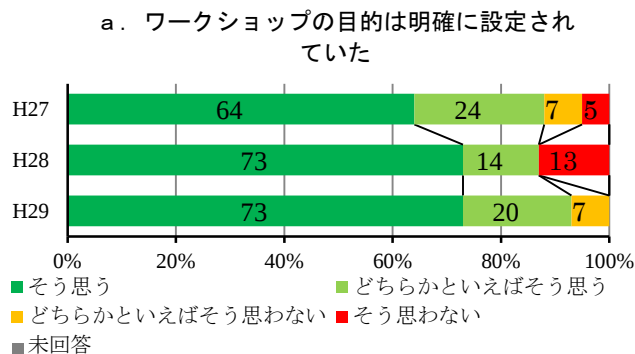
a. ワークショップの目的や内容についてある程度知った上で参加した

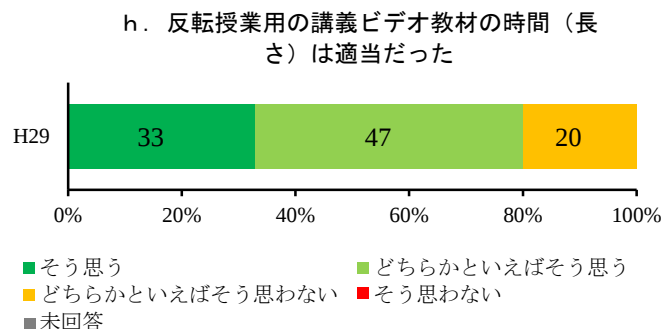
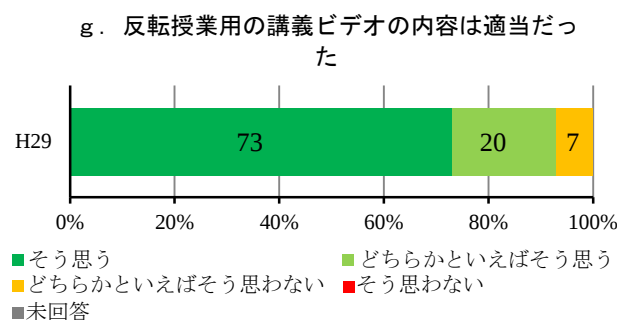
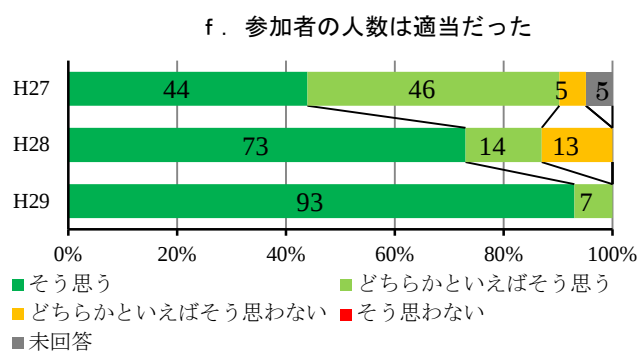
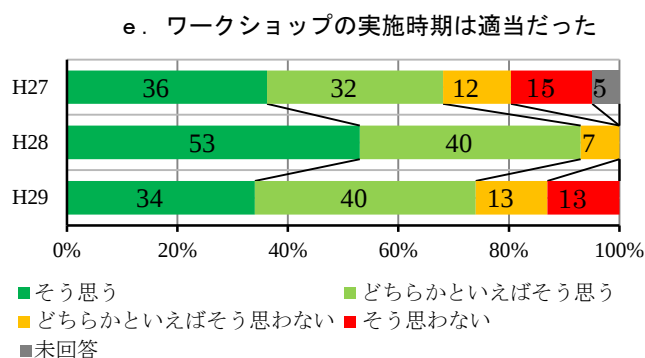




(2) プログラムについて

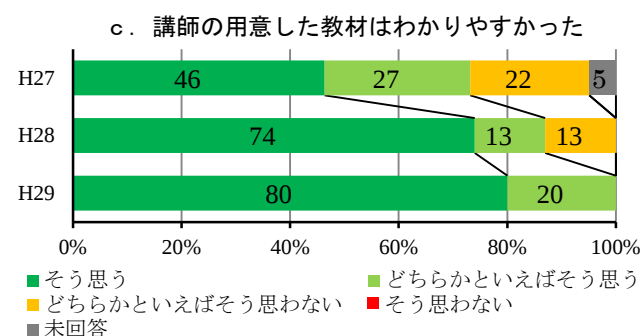
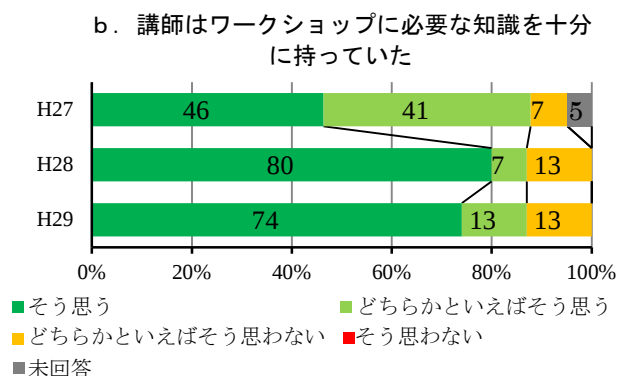
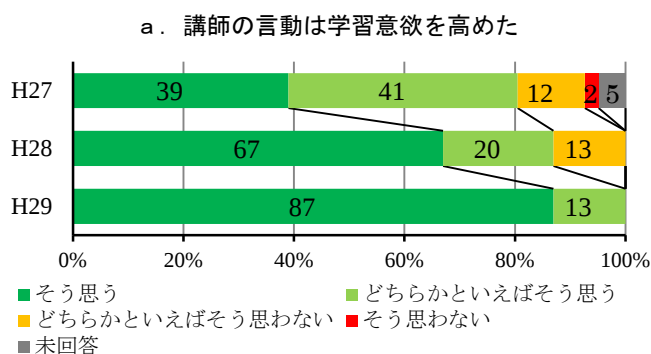
「c. ワークショップはわかりやすい順序ですすめられた」、「d. ワークショップの時間は目的を達成するために丁度よい長さだった」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した参加者が100%に達していることから、授業設計ワークショップは、わかりやすい順序で進められ、目的を達成するために丁度よい長さだったことが窺える。また、「g. 反転授業用の講義ビデオ教材の内容は適当だった」、「h. 反転授業用の講義ビデオ教材の時間（長さ）は適当だった」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した参加者が80%以上に達していることから、ビデオ教材の内容や時間は適切だったことが窺える。





(3) 講師について

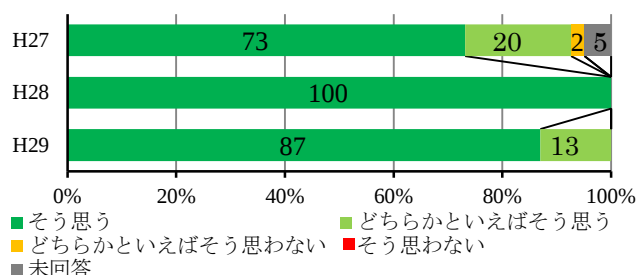
今年度の、「a. 講師の言動は学習意欲を高めた」で、「そう思う」と回答した参加者が、平成28年度と比較すると20ポイント増加している。「どちらかといえばそう思う」を併せれば、100%であることから、参加者にとって、講師の言動は、学習意欲を高めるのに有益であったことが窺える。また、今年度は、ワーク中心に研修を行ったことも、参加者の学習意欲を高めることにつながったのかもしれない。



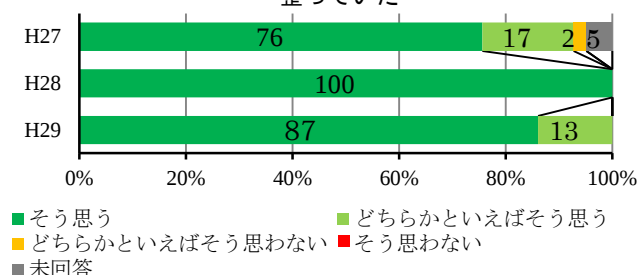
(4) 会場・スタッフについて

今年度は、「a. 会場は快適な環境だった」「b. 十分な設備が整っていた」「c. スタッフは手際よく運営していた」の項目において、参加者全員が、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した。今年度は、蔵本地区参加の教員が多数を占めたので、会場を蔵本地区に変更したことも評価の高さにつながったのかもしれない。来年度も、参加者の所属を考慮し、会場を決めたい。

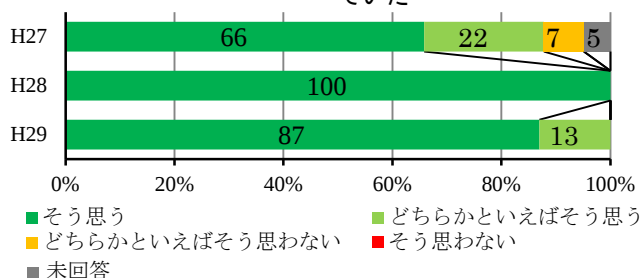
a. ワークショップ会場は快適な環境だった



b. ワークショップ会場には十分な設備が整っていた



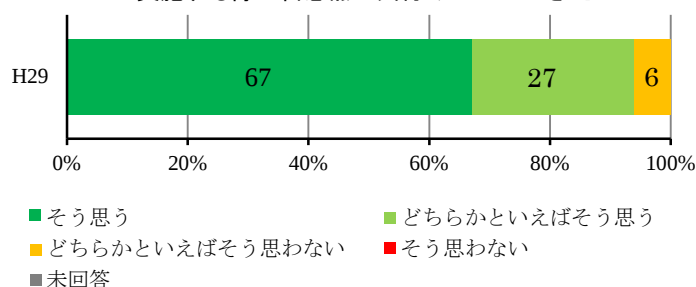
c. スタッフは手際よくワークショップを運営していた



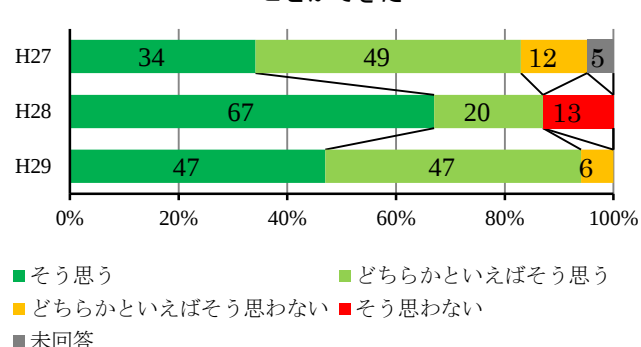
(5) プログラムの成果について

今年度の、「a. 反転授業を実施する際の留意点に気付くことができた」で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した参加者が、94%に達していることから、参加者自身が反転授業を体験することで反転授業の特徴（メリット・デメリット）が理解できたことが窺える。

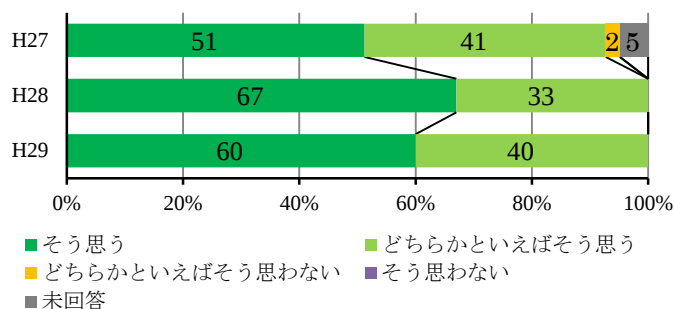
a. 反転授業形式を体験することで、反転授業を実施する際の留意点に気付くことができた



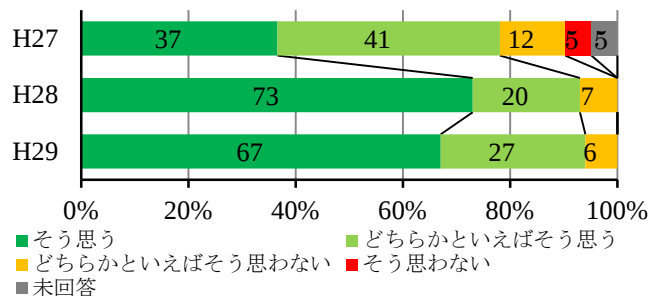
b. 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた



c. 受講したことによって教育への取り組み方が改善されると思う



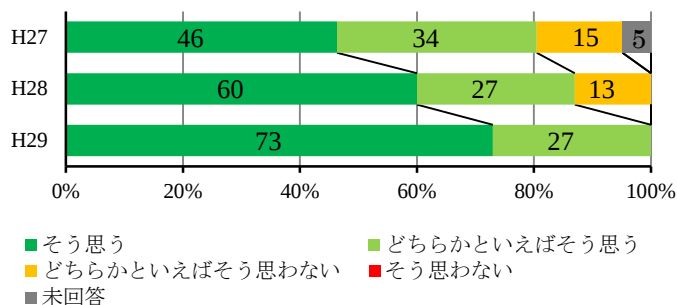
d. 新たに人的なつながりをつくることができた



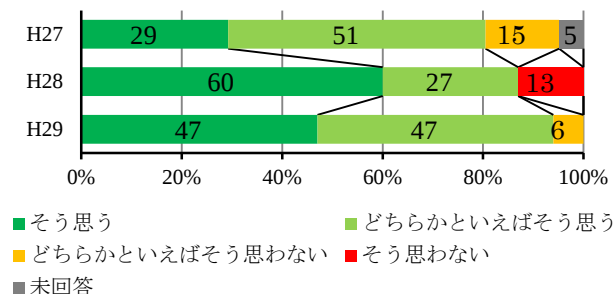
(6) 授業設計ワークショップ全体について

今年度の、「a. ワークショップは全体的に満足できるものだった」で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した参加者が、100%に達し、今までで一番高い評価になっている。また、「e. 反転授業形式での実施について」で、「反転授業形式で実施した方がよいと思う」と回答した参加者が、93%であったことから、反転授業形式は、参加者に好評だったことが窺える。来年度も、反転授業形式での実施を検討していきたい。

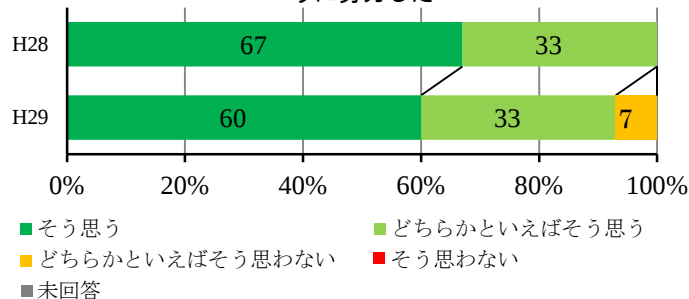
a. ワークショップは全体的に満足できるものだった



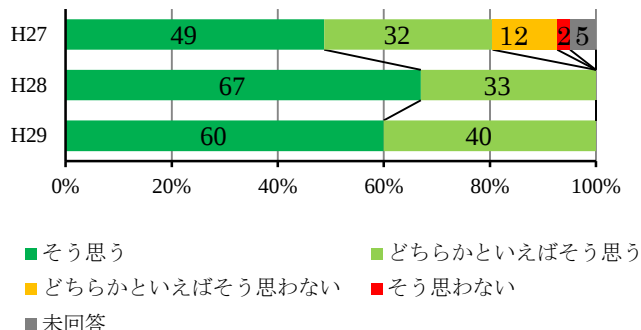
b. ワークショップは期待を上回る内容だった



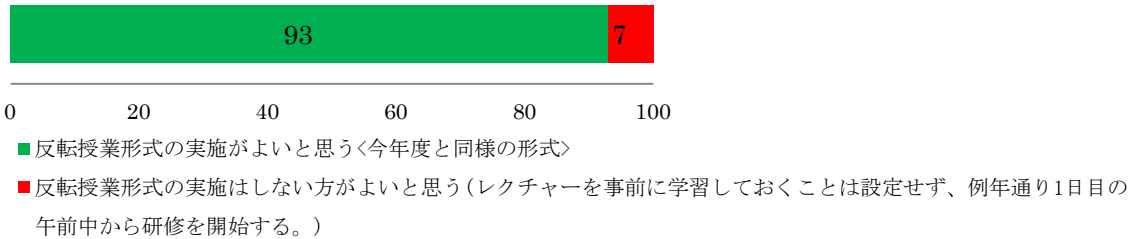
c. 授業設計ワークショップの目標を達成するように努力した



d. 今後も、この研修を継続していくべきだと思う



e. 反転授業形式での実施について



(7) 平成29年度「授業設計ワークショップ」自由記述について

「現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか」について、「ゆっくり話をするスキル」「話術(円滑さ)」「学生をひきつける対話力」「学生に興味をもたせる講義」など、参加者が、授業を進める上で、対話力・会話力が必要だと感じていることが窺える。また、「授業設計ワークショップ」に参加して良かったと思われる点を、具体的にお書きください」については、昨年度と同様、模擬授業が大変役にたったという意見が多かった。また、「授業についてあまり積極的に考えていない部分もこれまでであったが、自分の中にある指導に関する考え方を整理しなければならないと感じるきっかけとなった」など、研修を受けて、自身の授業方法への気づきが生まれていることが窺える。「このプログラムをよりよいものにするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください」について、「成績評価に関するビデオに重複があった」「ビデオ教材は一方向なので、もう少し内容を絞ってほしい」「反転学習の内容をサマライズした資料を用意してほしい」など、来年度に向けてビデオ教材の時間の短縮や資料の準備など検討していきたい。

(個別の自由記述は掲載省略)